

現代日本における専門職と専門職大学院

明星大学 鶴沢由美子

1 目的

2003年、高度専門職業人を養成するとして日本に専門職大学院が誕生し、10年以上がたつ。その間、法科大学院や教職大学院などが設立され、その数は164におよぶ。しかし、定員を満たしていない専門職大学院も多く、撤退した大学も多い。専門職大学院はアメリカのプロフェッショナルスクールを模して作られたものだが、その前提に問題はなかったのだろうか。本報告では、現代日本において専門職に対して人々がどのような概念を有し、どのような学歴を必要と考えているのかを把握し、法科大学院を中心に専門職大学院の課題を検討することを目的とする。

2 方法

「専門職とは歴史的、国内的、民俗的用語であり、分析する専門職が存する社会で把握されている専門職が専門職である」としたFreidson ([1986]1988)を参考に、日本に住む人の考え方を遍く捉えたいと考え、性別、年代に加え、全国の地域の人口構成比を「国勢調査」に照らしてサンプルを集め、インターネット調査を行った。調査年月日は2015年10月2日～5日で、調査対象は全国の20歳から69歳の男女1,086人（男性:49.9%,542人、女性:50.1%,544人）である。質問内容は、①63の職業の中から「専門職」と思うものを選択（複数回答）、②「専門職」と聞いて思い浮かべるイメージの選択（複数回答）、③「専門職」に必要なと思う学歴の選択（単一回答）等である。調査の結果をもとに、法科大学院を中心に専門職大学院の課題を検討する。

3 結果

現代日本で「専門職」と捉えられている職業は、1位の医師から上位20位まで、19位の消防士(消防員)を除いてすべて国家試験合格による資格を必要とする職業であった。次に、専門職に対するイメージとして「資格がある」「専門的知識に基づく技術を用いる」「手に職がある」の3つをそれぞれ5割以上の人を選択した。他方「確立した専門職」の特性とされる「社会的威信が高い」「公共性がある」「職業団体がある」等は2割未満で相対的に少なかった。すなわち、専門職として多く選ばれた職業は、国家試験に合格し、資格を得れば、その専門的知識に基づく技術を用いて日本全国どこでも需要さえあれば仕事を得られる職業である。学歴に関しては、専門職に就くうえで「高い学歴（大学）が必要」（32.4%）と思う人と「学歴は関係ない」（31.4%）と思う人の割合は拮抗しており、「高い学歴（大学院）が必要」と思う人は7.6%しかいなかった。

4 結論

現代日本における専門職のメルクマールは、「高等教育」に裏付けされた職業というアメリカにおける専門職の特徴とは異なり、国家試験合格等をもって取得しうる確固とした「資格」であることが示唆された。2016年の司法試験において、全国74の法科大学院を修了した合格者は1,348人で合格率は20.6%であったが、例外的ルートとされる予備試験合格による司法試験合格者は235人で前年から49人増え過去最多で、合格率は61.5%でどの法科大学院よりも高く、法科大学院の存在意義を問う声も上がっている。専門職大学院の課題として、当該分野の有用な関連専門職国家資格取得への道筋をつけること、有意な人材を惹きつけるために奨学金制度を充実させること、修了者に多様なキャリアを積める道筋を示すこと等が挙げられる。